

三菱UFJフィナンシャル・グループ

# 平成21年度中間決算ハイライト

平成21年11月18日

● 損益サマリー	2
● 部門別業績概要	3
● B/Sサマリー	4
● 貸出金・預金	5
● 貸出資産の状況	6
● 保有有価証券の状況	7
● 保有証券化商品等の状況	8
● 自己資本の状況	9
● 21年度業績目標／配当金予想	10

＜本資料における計数の定義＞

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

## ●業務純益

- 業務粗利益は金利低下に伴う預金収益の減少があったものの、内外法人貸出収益、市場関連収益の増加のほか、アコム連結化により増加
- 営業費は統合効果の発現に加え、グループ挙げての”聖域なき”経費削減に取り組み減少
- 以上の結果、実質業務純益は大幅な増加  
アコム連結化除いても増益を確保(534億円)

## ●与信関係費用

- 2行合算では減少したものの、その他連結子会社での増加、アコム連結化により増加

## ●株式等関係損益

- 株式等償却負担の減少を主因に大幅に増加し  
損失計上から利益計上に

## ●その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

### <連結P/L>

(単位:億円)

	20年上期	21年上期	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	16,965	18,132	1,166
2 資金利益	9,705	11,152	1,446
3 信託報酬+役員取引等利益	5,721	5,456	▲265
4 特定取引利益+その他業務利益	1,538	1,524	▲14
5 うち国債等債券関係損益	113	248	135
6 営業費	10,727	10,614	▲112
7 実質業務純益	6,238	7,517	1,279
8 与信関係費用*1	▲3,349	▲4,442	▲1,093
9 うち2行合算	▲2,422	▲2,240	182
10 株式等関係損益	▲752	133	886
11 その他の臨時損益	▲254	▲877	▲623
12 経常利益	1,881	2,330	449
13 特別損益	6	▲186	▲193
14 法人税等+法人税等調整額	476	425	▲50
15 中間純利益	920	1,409	489

\*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額  
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

### <ご参考>

(単位:円)

16 1株当たり利益	8.46	11.08	2.62
17 連結ROE *2	2.58%	3.77%	1.19%

\*2

中間純利益×2-非転換型優先株式年間配当相当額

((期首株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (期末株主資本合計-期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定))÷2

×100

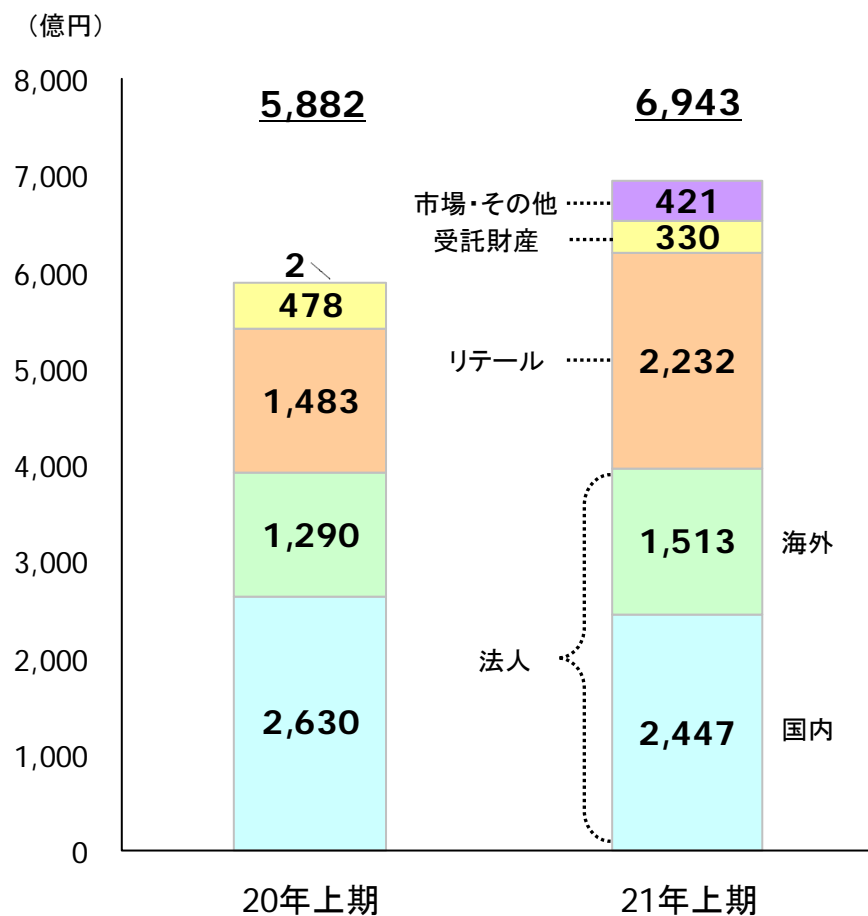
# 部門別業績概要

【連結】

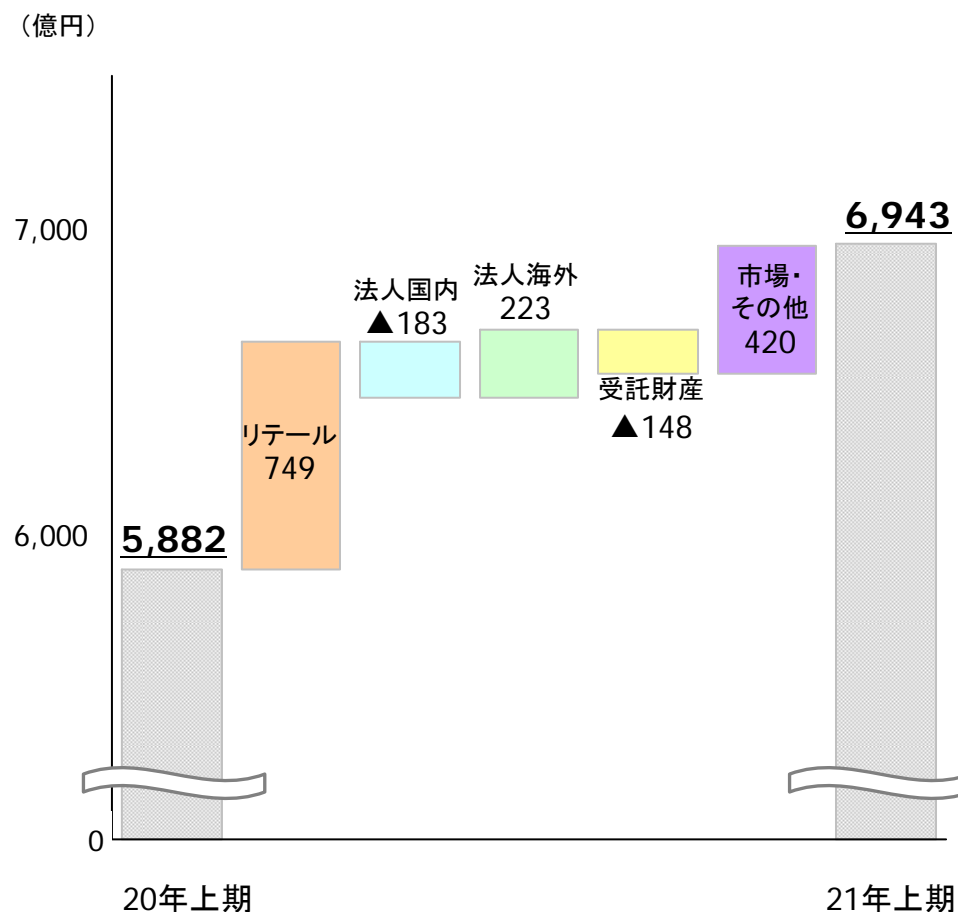


- 株価低迷により受託財産が微減となる一方、法人は国内、海外における堅調な貸出収益により預金収益等の減少をカバー。リテール、市場・その他では増加し、全体では前同比+1,061億円

## 部門別営業純益\*1



## 営業純益増減内訳\*1



\*1 管理ベースの連結業務純益  
信用リスクヘッジに係るクレジットデリバティブ損益は「市場・その他」に計上

## ●貸出金

- 国内外における法人貸出の減少を主因に21年3月末比減少

## ●有価証券

- 国債投資の増加により、21年3月末比大幅な増加

## ●預金

- 国内預金は減少の一方、海外店預金の大幅増加等により21年3月末比増加

## ●開示債権

- 開示債権の増加により、開示債権比率は21年3月末比悪化も、依然低水準

## ●その他有価証券評価損益

- 株式相場の上昇等により、21年3月末比大幅に増加し、評価益を計上

### <連結B/S>

(単位: 億円)

	21年3月末	21年9月末	21/3末比
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	922,566 [920,568]	882,072 [880,320]	▲40,493 [▲40,247]
2 うち国内法人貸出*1	502,392	481,131	▲21,261
3 うち住宅ローン*1	173,642	173,015	▲626
4 うち海外貸出*2	194,885	175,009	▲19,876
5 有価証券(銀行勘定)	483,141	573,843	90,702
6 預金	1,201,495	1,220,437	18,941
7 うち個人預金(国内店)	628,816	628,444	▲371
8 国内預貸金利回り差 (2行合算)	(20年下期) 1.44%	(21年上期) 1.34%	(20年下比) ▲0.09%
9 金融再生法開示債権*1	11,899	12,459	559
10 開示債権比率*1	1.24%	1.38%	0.13%
11 その他有価証券評価損益	▲9,177	4,148	13,326
12 連結自己資本比率 (Tier1比率)	11.77% (7.76%)	13.29% (9.13%)	1.52% 1.36%

\*1 2行合算+信託勘定

\*2 海外支店+ユニオン・バンカール・コーポレーション+BTMU(中国)

# 貸出金・預金

【連結】



●貸出金残高 88.2兆円  
(21/3比 ▲4.0兆円)

<21/3比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲2.1兆円
- 海外貸出\*1 ▲1.9兆円

\*1 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU (中国)

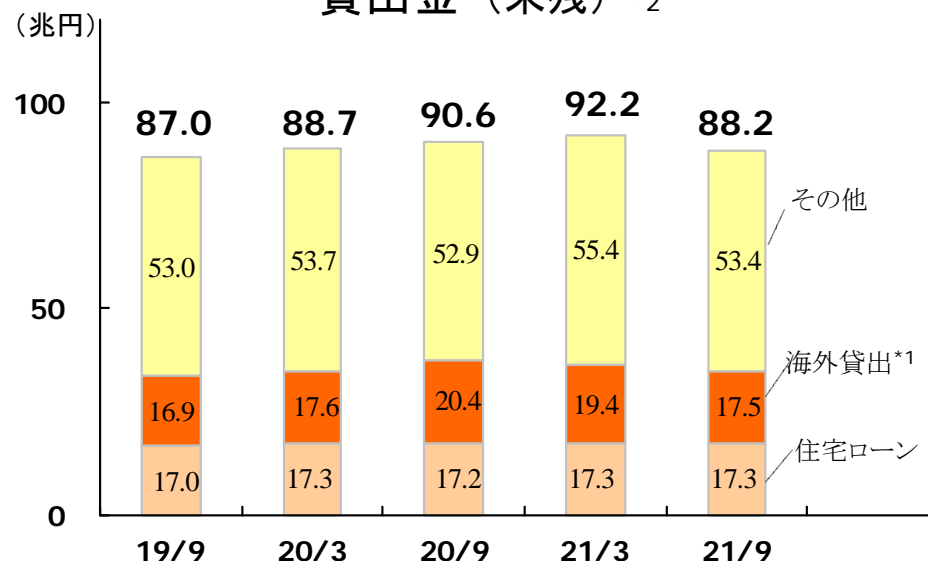
\*2 銀行勘定+信託勘定

●預金残高 122.0兆円  
(21/3比 +1.8兆円)

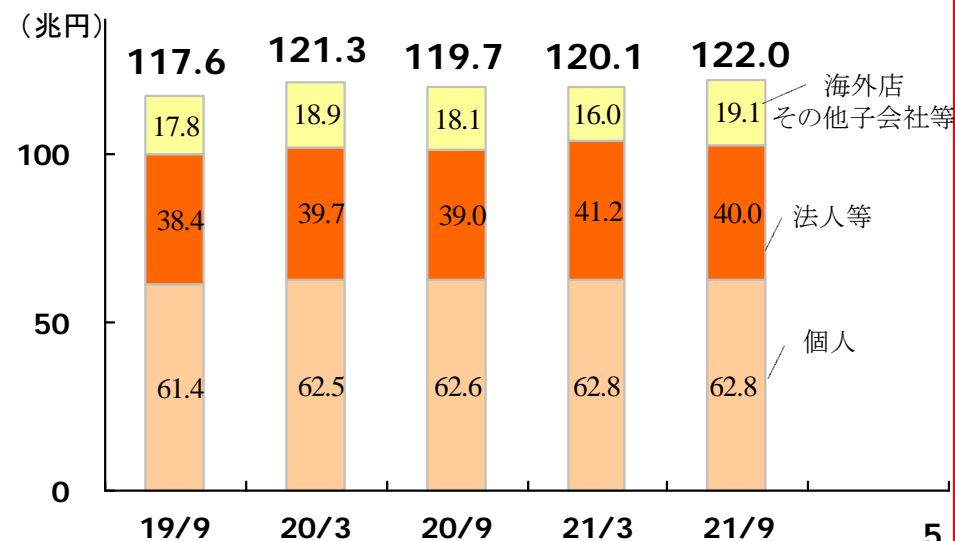
<21/3比増減の主要因>

- 個人預金 ▲0.0兆円
- 法人等預金 ▲1.1兆円
- 海外預金等 +3.1兆円

貸出金（末残）\*2



預金（末残）



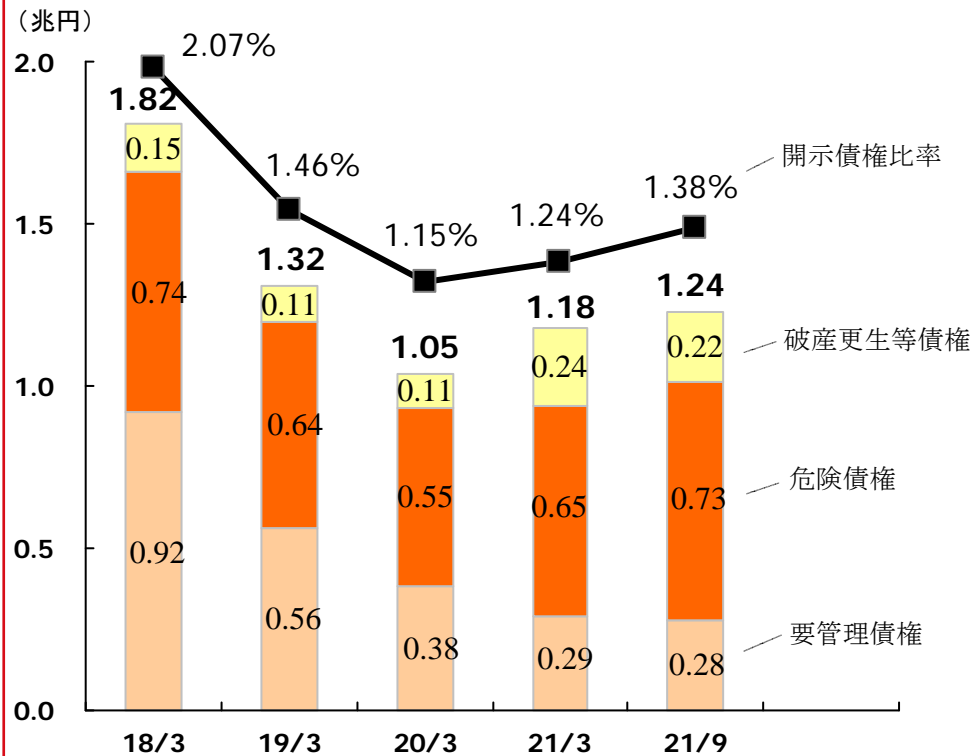
# 貸出資産の状況

【連結・2行合算】

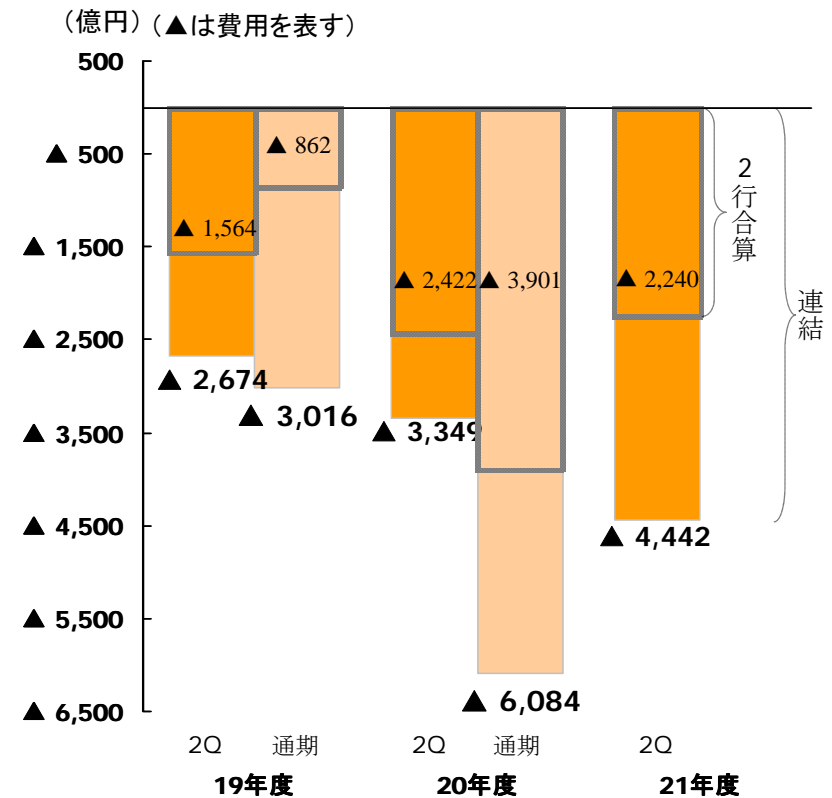


- 危険債権の増加により、開示債権比率は21/3末比0.13ポイント上昇の1.38%
- 与信関係費用総額は2行合算で2,240億円、連結では4,442億円の費用計上

## 金融再生法開示債権残高(2行合算)



## 与信関係費用総額



# 保有有価証券の状況

【連結】



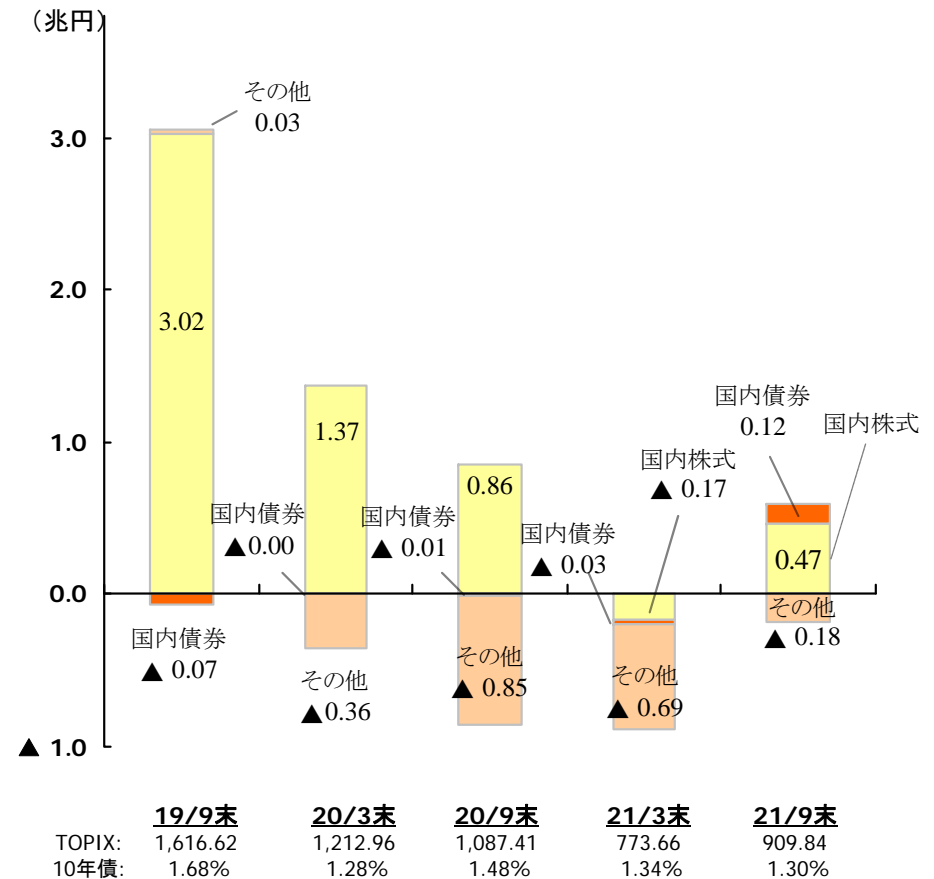
- 国内株式を中心に全項目で評価損益が改善。その他有価証券全体の評価損益は21/3末比1.33兆円増加

## その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	21年9月末 残高	評価損益	
			21/3末比増減
合計	505,005	4,148	13,326
国内株式	42,722	4,768	6,566
国内債券	334,620	1,242	1,627
その他	127,662	▲1,862	5,132
外国株式	3,079	636	843
外国債券	104,964	611	902
その他	19,617	▲3,109	3,386

## その他有価証券評価損益の推移





● 証券化関連商品等の残高は約1.98兆円(21/3末比▲0.31兆円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、1.98兆円に減少(21/3末▲0.31兆円)
- 評価損益は▲2,060億円と、21/3末比1,780億円改善
- 当中間期(平成21年4月～9月)の損益(P/L)への影響額は、売却損等による▲160億円

## 残高及び評価損益

	(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
			21/3末比		21/3末比	残高	評価損益
1	RMBS	1,060	▲920	▲60	410	0	0
2	うちサブプライム	340	▲160	0	90	0	0
3	CMBS	250	▲30	▲20	0	0	0
4	CLO	15,670	▲1,290	▲1,860	1,000	12,290	▲1,450
5	その他(カード等)	2,730	▲800	▲100	360	280	▲10
6	CDO	130	▲60	▲20	0	40	▲10
7	SIV	0	0	0	0	0	0
8	合計	19,830	▲3,100	▲2,060	1,780	12,600	▲1,470

\* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、平成21年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

## ● 自己資本額

- 有価証券評価損が含み益に転じたこと、優先出資証券の発行等により、21年3月末比1.47兆円増加

## ● リスクアセット

- 株価上昇やパラメータ変動等による増加と、証券化等の残高減少が、略同水準

### 〔採用手法〕

- 信用リスク:〔20年9月末〕  
基礎的内部格付手法(FIRB)  
〔21年3月末以降〕  
先進的内部格付手法(AIRB)
- オペレーショナルリスク:粗利益配分手法

- 自己資本比率 : 13.29%
- Tier1比率 : 9.13%
- コアTier1比率\*1 : 6.83%

\*1 コアTier1 = Tier1 - (優先株式 + 優先出資証券)  
コアTier1比率 = コアTier1 ÷ リスクアセット

(単位: 億円)

		20年9月末	21年3月末	21年9月末	21/3末比
1	自己資本比率	10.55%	11.77%	13.29%	1.52%
2	Tier1比率	7.63%	7.76%	9.13%	1.36%
3	コアTier1比率	6.15%	5.77%	6.83%	1.06%
4	Tier 1	83,804	75,751	88,943	13,191
5	うち優先株式	2,613	6,400	6,400	—
6	うち優先出資証券	13,703	13,071	16,010	2,939
7	うち有価証券評価損	▲416	▲8,038	—	8,038
8	Tier 2	37,660	42,161	43,835	1,674
9	うち有価証券含み益	—	—	1,851	1,851
10	うち劣後債	34,396	37,792	37,515	▲277
11	自己資本	115,902	114,784	129,489	14,704
12	リスクアセット	1,097,891	974,934	973,682	▲1,251
13	信用リスク	1,015,364	902,429	899,023	▲3,406
14	マーケットリスク	23,202	15,876	17,776	1,899
15	オペレーショナルリスク	59,324	56,627	56,883	255

# 21年度業績目標／配当金予想

【連結・単体】



## 【業績目標】

〔連結〕

		中間期 (実績)	21年度通期 (目標)
1	経常利益	2,330億円	6,000億円
2	当期純利益	1,409億円	3,000億円

## 【配当金予想】

		中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1	普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円

## 〔三菱東京UFJ銀行〕

(単体)		中間期 (実績)	21年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	4,080億円	8,650億円
2	経常利益	1,250億円	3,650億円
3	当期純利益	1,307億円	2,450億円

## 〔三菱UFJ信託銀行〕

(単体)		中間期 (実績)	21年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	529億円	1,200億円
2	経常利益	353億円	650億円
3	当期純利益	247億円	450億円

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。